ＪＲ東海労なごや

2013年3月12日　Ｎｏ．947
ＪＲ東海労名古屋地方本部
発行者：　山　田　哲　也
編集者：　堀　部　　肇

JR総連政策シンポジウム報告

3月9日、東京田町交通ビルにいおいて、「災害から組合員と乗客の命を守るために」を課題としたJR総連主催のシンポジウムが開催されました。名古屋地本からも2名の組合員が参加し、交通労働者にとって「災害」とは「命」とは何かを現実の生の声から学んできました。

■現地報告

シンポジウムは、政策プロジェクト報告、単組報告がJR北海道労組とJR東労組から行われました。JR北海道でのトンネル列車火災の現実や3．11大震災でJR東日本エリアでは津波被害を受けた列車においてもお客様、乗務員の死傷者がいなかった事実と、現場での生々しい対応や現実が語られました。

■マニュアルと違った行動をしてもその責任が問われないこと

指令は小学校に避難せよと連絡してきたが、現地の住民の意見を聞く中でより高台の中学校へ避難したことや乗客を避難させた後に列車に戻り津波に遭遇したが辛うじて跨線橋でしのいだことなどの行動に対して問題提起がされました。大災害時でも連絡が取れる体制作りはもちろん重要ですが、現場が命を守るためにいかに判断して行動するのか、この判断力が現場力を高めることになり、マニュアルと違った行動をしてもその責任が問われないことが保証される重要性が言われました。

■釜石の奇跡

特別講演では3．11大震災で「釜石の奇跡」と言われている防災教育を行った片田敏考教授の講演を受けました。片田教授はインド洋大津波の悲惨な現実を直視し、今ある現実を変え津波から逃げれる子どもを育てるために防災教育を始めました。「津波でんでんこ」の本質を心に響く言葉で子どもに伝え、家族との信頼関係を作ることで命を守ることなどを子どもと一緒に考えてきた現実が奇跡を生んだことを考えさせられました。講演のすべてにヒューマニズムが貫かれていると感じました。NHKでも特集が放送されました。以前のJR東労組での講演はセミナー誌上でも掲載されています。「命を守る教育」という著書も出されています。ぜひ触れてみてください。

■現場力を高めろ

既成の事実、押しつけを守るだけでは命は守れないことが語られました。ヒューマニズムに基づき自らが判断できる労働者になることが重要であると感じられました。さらに現場から命を守るために声をあげていきましょう。